

## 児童・生徒への丁寧なかかわりのスタンダード

麻生支援学校

### 児童・生徒を理解したかかわり

- 目を合わせることが難しい（苦痛を感じる）ことなど様々な理由でのコミュニケーションの困難さを認め、他者と双方向のやり取りする際の代替となるスキルを指導する。（ICT 機器やコミュニケーションカード等の活用）
- こだわりの強い行動に対して、その原因を広い視野で探り、固執しなくて済む環境の設定や関心を他に向かわせる等の手立てをとっている。
- 児童・生徒の良いところを見出し、評価し、得意なことを伸ばす指導を行う。（よいところ探し）
- 不安な気持ちや落ち着かない気持ちをクールダウンできる環境を設定しそこが児童・生徒にとって安心できる場所となっている。
- 言葉かけは簡潔にし、過度な刺激にならないことや肯定的であることを意識している。
- 児童・生徒の姿勢など、特性に応じた教材の示し方を工夫するとともに、スモールステップを意識して指導している。

### 人権に配慮したかかわり

- 年齢や性別、場面（授業・日常生活）を分けずに実践している。（さん付け呼称等）
- 教員の言葉かけが見本になっていることを意識し、児童・生徒への言葉かけは「です、ます」調で丁寧に行っている。
- 発する一言や態度が、相手を傷つけることがないように常に自分自身を振り返っている。
- 児童生徒の気持ちに寄り添い、児童生徒からの表出（選択肢、言葉に限らず表情、わずかな動き、心拍数など）を待ちかかっている。
- 児童・生徒が自分を大切に、自分を守ろうとする意識と力を身に着けられるような指導を心掛けている。
- 相手の気持ちを考えて、同じ目線でやり取りや行動することを大切にしている。

## 性差・年齢に配慮したかかわり

- 使用目的を明確にして年齢や発達段階に応じた教材、教科書、選曲の選定をしている。
- ジェンダーに配慮した言葉かけや学習環境の設定など対応を基本としている。
- 移動時の介助（手つなぎ等）は、歩行の実態や安全認知に応じて行い、なるべく見守りを主とした対応に心がけている。
- 児童・生徒が自分でできることを増やし（できるための過不足のない支援・適切な信頼）、家庭や学校において役割を果たし、人の役に立っているという意識を醸成する。
- 異性に対しての適切な接し方や、双方に安心感のある人との距離の保ち方を具体的に示し、指導を行っている。
- 年齢に合った接し方や言葉遣いを行っている。
- 発達段階に応じた性教育を学ぶ機会を設け、教員の意識を高めている。

## 児童・生徒の不適応行動に対する適切なかかわり

- 児童・生徒の行動の背景を探り言葉に耳を傾け、寄り添う姿勢を示している。
- その時の子どもにとっては緊急事態であること、困っているのはその子どもであることを理解している。
- 教員が落ち着いて対応することを心掛けることで、児童・生徒の興奮を鎮めること、怪我や事故に遭わないことを大事にしている。
- 他害行為の対象となってしまった場合は、他の教員と対応を変えている。
- 「パニック」という言葉でまとめず、原因を探り、行動の背景を具体的に捉えて不適応行動の除去に努めている。
- 周囲にいる児童生徒への支援も考慮し、複数人の教員で連携して対応するとともに一貫した支援ができるようにしている。

## 安全・安心な学習環境の整備

- 校内外の危険個所の把握を常に行い、安全を確保する環境面の整備をしている。
- 特性や健康状態により、子どもが出くわすかもしれない危険を予想している。
- 車椅子や装具などの点検を定期的の実施し、安全に過ごすことができるように努めている。
- 児童生徒の視線を意識し、環境を整え、目から入る情報の整理（ナッジの視点など）をしている。
- 指導中、身に着けているものについて危険や刺激につながらないように留意し、安心、安全な指導を心がけている。